

英国における障害児者へのスヌーズレンの福祉実践 (II)

— Multi-Sensory Room の今日的意義 —

姉崎 弘*

英国におけるスヌーズレン (SNOEZELEN) の最先端の取り組みである Multi-Sensory Room についてオックスフォードにあるスポーツセンターを例に紹介すると共に、その今日的意義について考察を加えた。従来までのスヌーズレンは、ホワイトルームに代表されるように主にリラックスを図ることを目的として多重感覚刺激環境を提供してきた。しかしこの Multi-Sensory Room はホワイトルームの機能の他に、各種入力スイッチの開発等により、一つのルームに多機能性を持たせることを可能にした。その結果、簡単な入力操作で周囲の環境を自分の思うように変えて楽しむことができ、特に障害児者の興味や活動性をさらに引き出し、外界とのコミュニケーション能力を高めるなどの意義が考察された。今後、障害者福祉の分野だけではなく、特別支援教育の分野においても特別支援教室 (仮称) の一つの形態として有効であると思われる。

キーワード: スヌーズレン、マルチセンソリアルーム、障害児者、福祉実践、特別支援教室 (仮称)

1. はじめに

近年、障害児者の生活の質を高め、充実した余暇の過ごし方として、「スヌーズレン (SNOEZELEN)」が注目されている。スヌーズレンは、1970年代にオランダで始められた。はじめは、重度知的障害者に対する充実した余暇の過ごし方として考案された。その後、この取り組みは、ヨーロッパやアメリカ、カナダ、アジアなどの世界中で紹介されて広まり、さまざまな障害児者や認知症のある老人、心が病む人々などにも適用され、臨床的にその有効性が指摘されている。

スヌーズレン (SNOEZELEN) は、オランダ語のスヌッフエレン (SNUFFELEN) 「くんくん臭いをかぐ」とドウズレン (DOEZELEN) 「うとうとする」という言葉からなる合成語である¹⁾。従って、スヌーズレンには、外界に積極的に働きかけていくというアクティブな側面と、緊張がとれたり眠たくなったりしてリラックスする側面の両面がある。一見して、相反するような両側面を持つのがスヌーズレンの特徴である。

姉崎 (2004) は、スヌーズレンの意義を次のように指摘している。さまざまな心地よい感覚刺激の受容体験を通じて「利用者と家族、ないし介護者が相互に共感し合いながら関わり、相互に楽しい感覚的な経験を通じて、信頼とリラクセーションに満ちた雰囲気を作り出すところにある。スヌーズレンの環境に身を置くことは、特に知的な活動を必要とはせず、人間の持っている原始的な感覚を優しく刺激することによって、脳の機能を活性化

するものである。」¹⁾

わが国では、1990年代に入ってから、論文や著書及び報告書においてオランダやイギリスでのスヌーズレンの取り組み^{2) 3)}が、また2000年代に入ってから、オランダ⁴⁾やスウェーデン⁵⁾、イギリス⁶⁾およびヨーロッパ⁶⁾におけるスヌーズレンの取り組みの様子がそれぞれ紹介されている。

筆者は、一昨年イギリスのスヌーズレン施設などをいくつか見学する機会を得た。イギリスでは、1990年代からスヌーズレンに関する実践や研究が盛んに行われるようになり^{7) 8)}、今日では、オランダをしのぐ大小のスヌーズレンが創設されており、中でも病院や特殊学校、施設のデイサービスなどで、知的障害児者や認知症のある老人、精神障害者などに幅広く適用されている。

イギリスでは、スヌーズレンの機器を開発・販売している会社はいくつかあるが、その中でSPACE KRAFT社の開発した機器が今日最も注目される。SPACE KRAFT社では、スヌーズレンの概念の中で、特に「くんくん臭いをかぐ」という側面に重点を置いて、魅力的な多重感覚刺激空間を自由に操作可能な各種の入力装置等を独自に開発し、障害児者はもちろんのこと、健常児者でも大変興味をそそられる Multi-Sensory Room (マルチ・センソリアルーム) の創出を通して、People with Special Needs (特別なニーズをもつ人々) の余暇の過ごし方や教育などに大きく貢献している⁹⁾。本稿では、これまでわが国に紹介されていないイギリスにおけるスヌーズレンの最先端の取り組みである Multi-Sensory Room について紹介し、その今日的意義について考察する。

* 障害児教育講座

2. Multi-Sensory Room とは

本稿では、オックスフォードにある州立のスポーツセンター“OXSRAD”(Sports for All)の中にある Multi-Sensory Room¹⁰⁾を例に解説する。およそ 20 畳ほどの広さであるが、このルームを使用することで得られるメリットは、以下の通りである。

第一に、人間の感覚をやさしく刺激したり、周囲の環境への気づきを高める。第二に、十分なリラックスと満ち足りた思いをもたらすことで、信頼感と情緒的な幸福感を提供する。第三に、ポジティブな人間関係を形成し、コミュニケーション能力を高める。第四に、周囲の環境を安全に探究したり、環境と相互交渉を持つことができ、行動による失敗や危険のない環境を提供する。ここは毎日開館しており、平日は9時から21時まで、土・日は9時から17時まで使用できる。完全予約制で1回の使用が45分間、費用は初回のルーム使用説明時に4ポンド、2回目からは2ポンドと低価である。特別なニーズをもつさまざまな人々が利用している。特殊学校に通っている障害のある子どもたちは平日の夕方や土・日に利用している。また地域に住む障害者が随時利用している。

この OXSRAD のように、地域福祉の一環として Multi-Sensory Room がスポーツセンターの中に設置されている場合と Dartford の Milestone Special School や Shrewsbury の Severndale School のように学校の教育活動の一環として設置されている場合などがある。

3. Multi-Sensory Room の紹介

ここでは、OXSRAD 内の Multi-Sensory Room の中にある主な機器とその機能等について述べることにする。

3-1 インタラクティブ・バブルチューブ

バブルチューブは、チューブの下にあるタッチボタンを押すことで、水泡を下部から上部に向かって出すことができ、チューブ内をタッチボタンと同色の赤、黄、青、緑に次々と自由に変化させることが可能である。チューブの色は鮮やかであり、また壁面に直角に置かれたミラーの効果によって、1本のバブルチューブを視覚的に見て4本あるかのように映し出すことができる。スイッチ操作により、自分の思い通りの光刺激を楽しむことができ、脳機能を活性化させる。(写真1・2参照)

3-2 サウンド・ライトムーブ

両手で拍手をすると、センサーがその音を検知して、壁面に映し出されたさまざまな色や形の光が音が鳴っている間回転させることができる。簡単な行動で周りの環境を変えることができ、驚きに満ちた空間を創出する。

(写真3参照)

3-3 ファンライト

壁面に置かれた光刺激の機器で、マイクに向かって息を少し吹きかけるだけでも、扇形のライトを次々に光らせることができる。吐く息を増大させると、それだけ多くライトを付けることができる。サウンド・ライトムーブと同じく、ちょっとした行動によって、光刺激を創出できるばかりか、光刺激の量を自ら加減することもでき楽しむことができる。(写真4参照)

3-4 サウンド・ビーンズ

このクッションチェアは人の身体を優しく包み込むように設計されており、身体を横たえると心地よい振動と音楽が流れ、心身ともにくつろぐことができる。(写真5参照)

3-5 ミュージックハンドウォール・システム

壁面の上部に、ミュージックハンドウォール・システムと呼ばれるスイッチとスピーカーが置かれていて、その下の壁面にマットが設置されている。このマットの手形マークの部分を手で軽く押すと、さまざまな音を鳴らすことができる。スイッチを操作することで、さまざまな楽器音に替えたり、音量の調節も可能である。自分好みのさまざまな音楽をかけることができ、大変興味深く楽しむことができる。(写真6・7参照)

3-6 アロマストロームとイージーコントロール・システム

壁面上部の棚の上にエッセンシャルオイルを揮発させて送風するアロマストロームが置いてあり、部屋全体を香しい空間にしている。またオレンジ色のタッチスイッチを軽く押すだけで、壁面に設置されているセンサーが感知して(写真8・9参照)、プロジェクターによる映像(写真10参照)などのさまざまな光空間を創出することができる。この簡単な入力装置は、手だけではなく、肘や頭部、顎などの自分が使える得意な身体部位を用いて軽いタッチでスイッチをオン・オフにすることができ、遠隔操作によって自分の希望する多重感覚刺激空間を創出することができる。スイッチには、この他に、腕や足、頭部などに装着することで、腕や足を上下に動かしたり、頭部を左右に動かしたりするだけで、簡単にスイッチをオン・オフにすることのできるものも開発されており、重度障害のため動かすことのできる身体部位が限定される障害児者のニーズにも十分に応えることができる。

3-7 プロジェクター・テント

バブルチューブの横に、クッションを敷いたくつろげ

るスペースがある。ここにプロジェクター・テントが天井から吊るしてある。このテントの中に自分の身体を入れてテントで身体を覆い、そこにプロジェクターで回転する映像を写すと、テントの中に居ながらにして、テントの表面に映し出された映像をテントの内部から視覚的に楽しむことができる。(写真 11 参照) また、バブルチューブとプロジェクター・テントと光ファイバーがさまざまな色に変化するファイバーオプティック・サイドグローの 3 つからなるセンサー・テーマスタジオが、部屋の奥に設置されている (写真 12 参照)。

3-8 ミラーボールとウルトラバイオレット・ブラックライト

センサー・テーマスタジオと反対側のスペースに、ミラーボールが天井に設置され、ゆっくり回転しながら視覚的にほどよい光を発光している。また天井にはウルトラバイオレット・ブラックライトが設置され (写真 13 参照)、暗い部屋の中でもブラックライトを照射された色鮮やかな発光体を視覚的に見て楽しむことができる。

3-9 ブラックライト・スペース

ブラックライトの照射されたさまざまなグッズ (教具) が色鮮やかに発光している。(写真 14 参照) ツイスト・チューブは長い円柱形の光教具で、上下を逆さまにすることで、中にある色鮮やかな粒子を移動させて楽しむことができる。(写真 15 参照) また、メガファン・タブは、手の指を下方から当てると、手指の形を浮き出すことができる。手指の形以外にも、さまざまな形を創ることが可能であり大変興味深いグッズである。(写真 16 参照)

以上述べてきたように、簡単に操作のできるスイッチがおかれ、光刺激を中心に、聴覚刺激や触覚刺激などを自分の好みに応じてさまざまに組み合わせて楽しむことが可能である。一部屋でありながらも、人間の興味をそそる多機能性を有し、特別なニーズをもつ障害児者が自分だけの空間を自由に創造して楽しむことを可能にしたのが、この Multi-Sensory Room である。

4. Multi-Sensory Room の今日的意義について

この Multi-Sensory Room の今日的意義として、以下の点があげられる。

第一に、ルームの中でさまざまな視聴覚等の刺激を十分に楽しむことができることから、一つのルームが多機能性を有することを可能にした結果、これまでのスヌーズレンのようにさまざまな種類のルームを必要としなくなり、施設や学校などに取り入れることを容易にしたこと。

第二に、障害児者が手元のスイッチの簡単な操作によって入力を行うことができ、環境を自分の思うように変化させることができ、身体障害児者や重度障害児者でも自ら主体的に周りの環境を楽しめるようにしたこと。

第三に、従来のホワイトルーム¹⁾のように固定した環境の中でリラックスを図るだけではなく、障害児者が自ら感覚刺激の種類や量を加減できることで、自らの興味を増大させ、より活動的な行動を引き出すことをも容易にしたこと。(図 1 参照)

第四に、心地よい魅力的な非日常空間を十分に体験し味わうことができることから、心の内面から満たされ充実した余暇を過ごすことができると共に、外界の物や人とのコミュニケーション能力を高めることができること。

第五に、障害者福祉の分野だけではなく、わが国の特別支援教育においても小・中学校に設置される予定の「特別支援教室 (仮称)」¹²⁾ の一つの形態として、学習障害などの軽度発達障害児等の心理的な安定を図る環境設定法としても有効であると考えられること。

図 1 に、ホワイトルームとマルチセンサールームの関係を示した。マルチセンサールームはホワイトルームを包含した機能を有し、より活動的であり、興味の拡大をさらに図るものである。

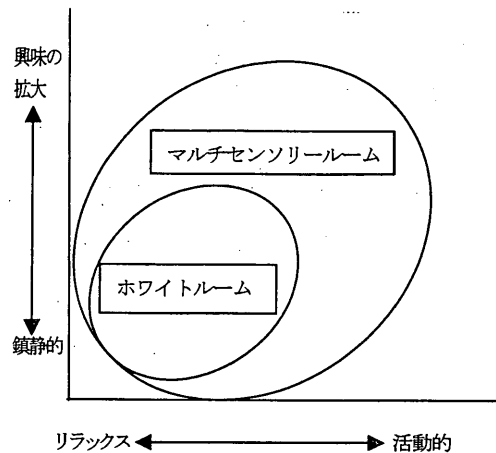


図 1 ホワイトルームとマルチセンサールームの関係

5. おわりに

Multi-Sensory Room は、よりインタラクティブな環境設定を可能にしたことから、これまでのスヌーズレンの取り組みを超えるものであり、福祉における余暇活動の他にセラピーや教育としても有効であると思われる。姉崎 (2004) は特にわが国の学校教育においてスヌーズレンを自立活動やクラブ活動の時間の中に位置づけるのが有効であると指摘している¹²⁾ が、今後は小・中学校の特別支援教室 (仮称) に Multi-Sensory Room を設置して、軽度・中度発達障害のある子どもたちの心理面の安定等に有効であるかどうかを科学的に検討することが今

目的課題の一つとしてあげられる。

※なお、本研究は、一部、科学研究費補助金基盤研究（代表姉崎 弘）の援助を受けて行われた。

謝 辞

本研究に際して、ご協力をいただいた日本スヌーズレン協会理事の小菅秀泰氏、OXSRAD内のMulti-Sensory Roomの案内と懇切丁寧な説明をいただいたSPACE KRAFT社のTonny Ellison氏に心から深謝申し上げます。

引用・参考文献及び資料

- 1) 姉崎 弘 英国における障害児者へのスヌーズレンの福祉実践—WORCESTER SNOEZELEN CENTERの取り組み— 三重大学教育実践総合センター紀要 第24号 pp.121-126, 2004
- 2) 鈴木清子 第10回海外研修報告書 社会福祉法人清水基金 pp.6-30, 1991
- 3) 山中裕子, 他 自主シンポジウム16 最重度の知的障害を持つ人々への取り組み—ヨーロッパでのスヌーズレンの紹介を通して— 日本特殊教育学会第34回大会発表論文集 pp.J-17, 1996
- 4) 鈴木清子 知的障害を持つ人自身の活動—スヌーズレン— 日本スヌーズレン協会 pp.1-21, 2001
- 5) 河本佳子 スウェーデンのスヌーズレン 新評論 2003
- 6) 光や音 障害者楽しむ—スヌーズレン— 朝日新聞(朝刊) 2004年4月3日
- 7) Hutchinson, R. THE WHITTINGTON HALL SNOEZELEN PROJECT. North Derbyshire Health Authority 1991
- 8) Ashby, M., Lindsay, W., Pitcaithly, D., Broxholme, S. and Geelen, N. Snoezelen: its Effects on Concentration and Responsivrnness in People with Profound Multiple Handicaps. British Journal of Occupational Thetapy 58 (7), pp. 303-307, 1995
- 9) <http://Spacekraft.co.uk/>
- 10) Oxfordshire County Council OXSRAD SENSORY ROOM 2003
- 11) 中央教育審議会 特別支援教育を推進するための制度の在り方について(中間報告) 日本教育新聞 2004年12月10日
- 12) 姉崎 弘 重症心身障害児教育におけるスヌーズレンの有効性について—肢体不自由養護学校の自立活動の指導に適用して— 日本重症心身障害学会誌 第28巻 第1号 93-98, 2003

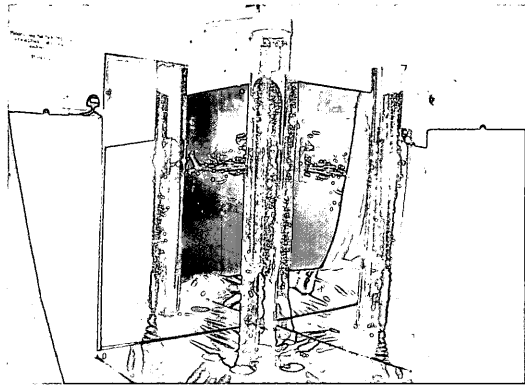


写真1 バブルチューブ・システム

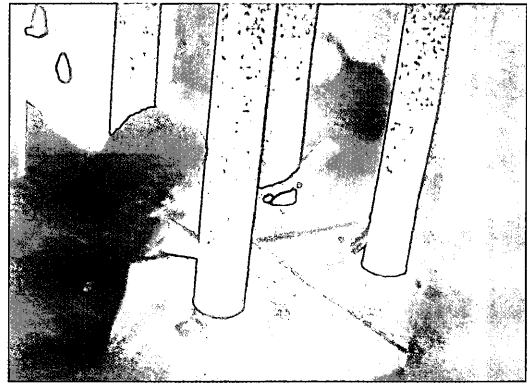


写真2 インタラクティブ・バブルチューブ



写真3 サウンド・ライトムーブ

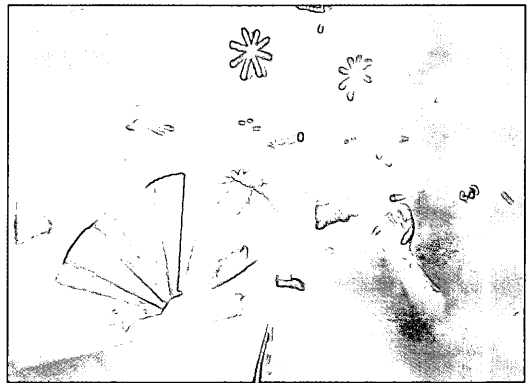


写真4 ファンライト



写真5 サウンド・ビーンズ

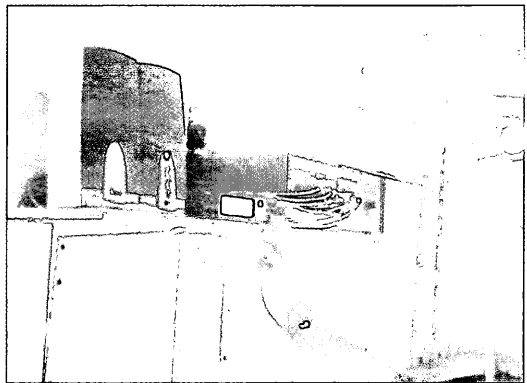


写真6 ミュージックハンドウォール・システム



写真7 ミュージック・ハンドウォール



写真8 イージーコントロール・スイッチ

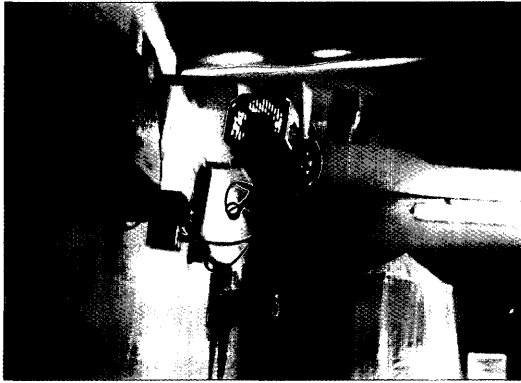


写真9 アロマストローム&イージーコントロール・システム

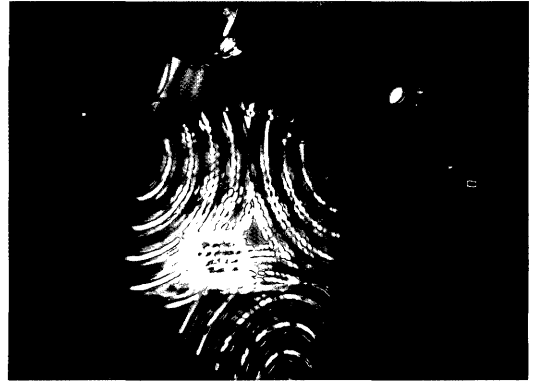


写真10 プロジェクター・イフェクト



写真11 プロジェクター・テント



写真12 センソリー・テーマスタジオ



写真13 ミラーボール&ウルトラバイオレット・ブラックライト

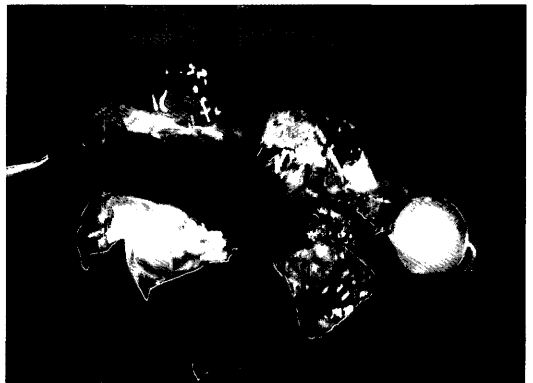


写真14 ブラックライト・グッズ



写真15 ツイスト・チューブ



写真16 メガファン・タブ